



おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)



<おたふくかぜとは?>

おたふくかぜウイルスの感染により、耳の下(耳下腺)が腫れて痛くなります。通常左右とも腫れますが、片側だけのこともあります。ひどく腫れる場合もあれば、軽く済む場合もあります。腫れは 5-7 日間でひきます。熱は出ないこともあります。

不顕性感染(=感染しても発病しない)が 30-40%あります。



<治療>

直接治療する薬はありません。痛みをおさえる薬を処方します。痛いときは冷湿布もよいでしょう。ただし、反復性耳下腺炎との区別が困難な場合には抗生物質を投与することがあります。



<家庭で気をつけること>

(1)食べ物:すっぱいものや、よくかまなくてはいけない食べ物は避けましょう。よけいに痛くなります。痛みが強いときは、かまずに飲みこめるものを食べさせましょう。牛乳やみそ汁、ポタージュスープ、プリン、ゼリー、おかゆ、とうふ、グラタンなどがよいでしょう。

(2)入浴:高い熱のあるときや痛みが強いとき以外は入ってかまいません。



<合併症>

(1) 3-10%に髄膜炎を合併します。高熱、激しい頭痛、頻回の嘔吐があれば髄膜炎です。このような症状が出たら早めに再診してください。髄膜炎になると最低 1-2 週間は入院が必要です。

(2)聴神経障害を起こすことがあります。聴力検査で偶然に発見される難聴の多くはおたふくかぜが原因と考えられています(片側難聴は日常生活には不自由がないので気付かれません)。

(3)成人期にかかると睾丸炎や卵巣炎を合併することがあります。



<保育所・学校>

学校保健法では出席停止期間は「耳下腺の腫脹が消失するまで」と定められています。耳下腺が腫脹している間は登園、登校はできません。



<予防>

おたふくかぜを予防するにはワクチン接種しか方法がありません。おたふくかぜは合併症が多い病気です。まだかかっていないお子さんがいたら、早めにワクチン接種を受けましょう。髄膜炎や難聴になってからでは手遅れです。1 歳を過ぎれば接種を受けられます。



<検査>

血液検査をして、おたふく抗体価を測定します。耳下腺腫脹時のおたふく IgM, 耳下腺腫脹 1 カ月後のおたふく IgG, 中和抗体(NT)の上昇が確認されれば、おたふくに罹患したことが証明されます。

* パラインフルエンザウイルス 3 型などの他のウイルス感染や口腔内細菌による反復性耳下腺炎でも耳下腺腫脹が起こります(見かけ上はおたふくかぜと区別が付きません)。これらと区別をするために血液検査が必要です。